

- 令和
 - 2020年 那覇空港第2滑走路が供用開始
 - 2021年 名護東道路が全線開通
 - 2022年 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)を策定
- 平成
 - 1990年 沖縄県本庁舎行政棟が完成
 - 1995年 倉敷ダムが完成
 - 2002年 ニライカナイ橋が開通
 - 2011年 那覇うみそらトンネルが開通
 - 2012年 沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)を策定
 - 2013年 新石垣空港が供用開始
 - 2015年 伊良部大橋が開通

- 昭和
 - 1933年 小禄海軍飛行場が完成
 - 1954年 那覇民間空港用ターミナルビルが供用開始
 - 1965年 ガーブ川改修工事が完了
 - 1972年 沖縄振興開発計画を決定
 - 1974年 福地ダムが完成
 - 1976年 海洋博公園が開園
 - 1987年 於茂登トンネルが開通
 - 沖縄自動車道が全線開通

沖縄建設年表

第4回 建設編



産業の歴史をひもとく年代記 沖縄産業 クロニクル

県民の暮らしに密接に関わる
さまざまな産業はどう始まった?
その変遷と展望を紹介します。

監修・山内昌斗(専修大学経営学部教授)

沖縄経済を牽引する建設業

戦前、沖縄の建設業界で活躍したのが大宜味大工(うじみざい)。農地に乏しい大宜味村の人々は、出稼ぎの大工として県内各地の建設に携わりました。仕事が早く、仕上がりが丁寧で工事費用が安い大宜見大工は人々から高い評価を得ました。やがて1920年頃から建設関連企業が次々と設立されるなど、業界の動きが活発化。しかし、太平洋戦争が勃発すると軍関連工事が増加。戦後は米国施政権下で米軍基地の建設が進み、沖縄のみならず国内外の企業が基地建設に参加しました。

一方で、戦後復興にあわせて民間住宅の建築も増えました。破壊された戦車や艦船、戦闘機

TOPICS

3

建設業がリードしてきた沖縄経済

大城組の大城鎌吉氏、國場組の國場幸太郎氏、大東製糖(および琉球セメント)の宮城仁四郎氏そしてオリオンビールの具志堅宗精氏。彼らは沖縄経済四天王と呼ばれ、沖縄経済に大きな影響を与えました。具志堅氏を除き、彼らは建設および建設資材事業を基盤に事業の多角化を進め、企業グループを形成しました。建設業界は沖縄経済の中心的な存在となりました。

沖縄経済の中核! 建設業

2

鉄筋コンクリート造住宅で台風・シロアリに強い島へ

全国の新築一戸建住宅(戸数)の約88%が木造であり、鉄筋コンクリート造は約0.7%*。ところが、沖縄での鉄筋コンクリート造の割合は約54%です。約85%を超えていたかつての数字からは低下しているものの、鉄筋コンクリート造住宅が多い沖縄の街並みは全国的にも珍しいものとなっています。

*国土交通省「建築着工統計調査」(R5年度)より

鉄筋
コンクリートの
建物がたくさん!



ビルも家屋も木造がほぼ見当たらない那覇の街並み

注目トピックス

県内で
現存最古!



県内にある最初の鉄筋コンクリート造建築で現存最古のもの

機能と造形美が融合! 大宜味村役場旧庁舎

山林地帯である大宜味村の人々は、木材・薪炭運搬用の船の製造や、しし垣構築の経験を活かし出稼ぎ大工として活躍。1925年に建てられた大宜味村役場旧庁舎は現存する県内最古のコンクリート造建築物として知られており、勤勉で研究熱心な大宜見大工の技術力の高さを現在に伝えます。

建設業界における技術革新

建設資材の高騰、人手不足、技術者の高齢化、自然環境への負荷など、建設業界はさまざまな課題に直面しています。こうしたなか、建設用3Dプリンティング技術を用いて、建築物を造る試みがなされています。これはコンピューターに入力された3次元データを元に、特殊なモルタルをノズルから吐出して立体構造物を造り出すもので、実際に住宅や倉庫、擁壁などが造られています。近い将来、この技術で造られた住宅に暮らす日が来るかもしれません。



などの鉄くずを、住宅用鉄筋に作り変えたのが県内唯一の製鉄メーカー「拓南製鐵」。沖縄戦で人々の命を奪った鉄を、今度は台風被害から人々の生命や財産を守る鉄へ変えることを試みました。木造住宅が多い日本において、沖縄では鉄筋コンクリート造住宅が普及し、台風



戦後、鉄くずは高値がつくこともあり、スクラップブームが起こった(那覇市歴史博物館提供)



集められた鉄くずは再利用され、新たな建築物の原料にされた(那覇市歴史博物館提供)

戦後、スクラップブーム到来

戦後、住宅の建設ラッシュ



1951年、古いコンセット型の住宅からコンクリート製住宅にかわる陸軍家族用住宅(沖縄県公文書館所蔵)



1959年、那覇市若狭 市営住宅建設現場(沖縄県公文書館所蔵)

街づくりが進められました。本土復帰後は、本土との格差是正を目指した大規模な公共投資が日本政府によって行われ、道路や空港・港湾、ダム、学校などが建設されました。当初、国が策定していた沖縄振興開発計画は、2012年の沖縄21世紀ビジョン基本計画から県が主体

となり国がこれを支援する仕組みが導入され、より一層沖縄の特性に合った施策の主体的な展開が可能となりました。

建物や社会インフラの整備・維持に携わる建設業は、経済規模・雇用数などにおいて沖縄の主要産業となり、私たちの暮らしに深く関わっています。



たくさんのビルが建ち並び那覇市久茂地周辺

大型公共物が次々と!



2015年に開通した宮古島と伊良部島をつなぐ伊良部大橋(沖縄県宮古土木事務所提供)



平和を希求する

「沖縄のこころ」を世界へ ~ 支援募金へご協力をお願いします ~



こ
ち
ろ
く
は



平和を希求する

「沖縄のこころ」を世界へ ~ 支援募金へご協力をお願いします ~



こ
ち
ろ
く
は